

令和5年度 自己評価結果公開シート

幼稚園型認定こども園 高槻双葉幼稚園

学校法人 高槻双葉学園 学校関係者評価委員会

評議委員 ・外部評議委員 8名

・保護者 6名 (オブザーバー14名)

令和5年度 学校関係者評価委員会実施実績

* 第1回学校関係者評価委員会

令和5年 9月27日(水) 14:00 出席 外部評議委員 4名
保護者 16名

* 第2回学校関係者評価委員会

令和6年 3月29日(水) 14:00 出席 外部評議委員 3名

保護者 16名

1, 本園の教育目標

『たくましいからだ と 豊かな心』

1. 調和のとれた人間性を育てます
2. 心身共に健康な子どもの育成を目指します
3. 知性と情緒豊かな感動を覚える子どもに育てます

2, 本年度重点的に取り組む目標・計画

自己点検・自己評価を継続して取り組む中で見えてきた全員に共通する着手の難しい課題に対して、原因を探り、その課題を解決する必要性を共有し、具体的な実践計画を立てて繰り返し取り組む中で、よりよい保育を確立していく。また、園内研修に重点を置き、園内の課題に全員が共通の認識を持つことができるよう努める。

3, 令和5年度 重点評価項目の達成及び取り組み状況

課 題	具 体 的 取 り 組 み 目 標
・家庭と園をつなぐ子育て支援メニューについて考える	①妊娠期から家庭が園とつながることができる多様なメニュー・内容がある。 ②様々な家庭の支援・援助ニーズを受け止められる複層化・多様化したメニュー・内容がある。 ③子育て世帯の支援・援助ニーズや把握できる体制があり、それらを次の園の事業・活動の参考として、よりよい子育て支援メニュー・内容がある。

<p>・子どもと考える食育</p>	<p>①子どもが野菜などをはじめとする素材に興味・関心をもち、自身の体や健康と結びつけながら素材や食事を考えようとする。</p> <p>②園内及び情報発信の場面において、子どもや保護者が活用・把握できる食育に関する資料や掲示があり、それらをもとに気付きや学びが広がる。</p> <p>③子どもが管理栄養士や給食調理員の仕事や、給食室の施設に関心を持ち、食を作る仕事への関心が高まる。</p>
-------------------	---

4, 令和5年度 重点事項への取り組み

(中間報告 9月実施)

課 題	具 体 的 取 り 組 み
<p>・家庭と園をつなぐ子育て支援メニューについて考える</p>	<p>①妊婦さんを対象にした「はなっこルーム」で、アロマ教室を企画・開催した。</p> <p>②・「たねっこルーム」として、0歳児・1歳児を対象のクラスを開催した。</p> <p>・「たねっこルーム」で、当園管理栄養士・看護師による講話を企画、実施した。(看護師回は出席者なし)</p> <p>・子育て相談(電話)</p> <p>・園庭開放の実施。</p> <p>・園庭ピクニックの実施。</p> <p>・ふたぷうマーケット(フリーマーケット)の開催。</p> <p>・2歳児クラス「にこにこクラブ」「スマイル」の実施。</p> <p>③園庭開放やたねっこルーム開催時に、保護者のニーズを聞きとり、園庭開放等の内容などに反映している。</p>
<p>・子どもと考える食育</p>	<p>①野菜栽培の体験</p> <p>②管理栄養士による野菜や食材についての掲示コーナーを作り、子どもがいつでも見ることができるようにしている。また、それをSNSでも発信した。</p> <p>③給食配膳を管理栄養士や調理員も担当し、子どもたちと直接かわったり話す機会が持てるようにしている。</p>

(取り組み成果)

〈家庭と園をつなぐ子育て支援メニューについて考える〉

- 妊婦さんから、2歳の未就園児の保護者を対象にした企画を様々な考え、実施することができた。アロマ教室では、外部講師を招き、妊婦さん1名と在園児保護者に参加していただき、開催することができた。参加保護者からは、「なかなか自分のことに時間をかけることができないので、幼稚園開催ということで安心して参加することができた。」「リフレッシュできた」「是非定期開催してほしい」という感想の声をいただくことができた。
- 園庭開放については、初回費用として100円徴収させていただき、名札を個人持ちにした。そのことで、園庭開放時の受付時間が短縮でき、参加保護者との交流時間にあてることができた。
- 園庭開放で「次年度新入園児さん参加」という回を設け、次年度の園生活スタートに向けて、少しでも顔見知りの保護者や友だちができるようにした。昨年度もこの方法を実施し、子どもたちが慣れていたことも実感として手ごたえを感じているので、よかった。
- 園庭ピクニックを2回開催し、各回、10組程度の親子の参加があり、皆で一緒にお弁当を食べることができた。参加者保護者どうしが話をしたり、他家族と一緒に食事をする中で、ご自身のお子様の食事の様子について色々な気づきがあった。(食べる量やはやさ、好き嫌い等について)

・園庭開放参加人数

5/12	5/30 pic	6/12	6/26 pic	7/3	7/20	8/28	9/2(土)	9/5
25	19	21	27	24	23	3 どろんこ	9 どろんこ	18
16	19/16	6	10/10	2	11			5

・たねっこルーム(はいはい・よちよちコース)

5/17	6/7	7/19	9/13
11	13	13	8

・たねっこルーム(ごろごろコース)

5/24	6/21	7/5	9/20
2	3	2	0

- 2歳児クラス「にこにこクラブ」を5月から実施。42名が登録。週1回の登園で1時間20分のクラス。9月から親子分離登園。1学期から保護者同伴で園舎(ホールなど)と一緒に遊んだりする活動を入れたことで、親子で入園前に園の雰囲気を知っていただくことができた。
- 2歳児クラス「スマイル」は、国のモデル事業として、7月から開始。28名登録。週に1回の登園で親子登園は初回のみで、10月までは9時から12時までの保育。11月以降から13時15分までとなり、お弁当持参、3学期は給食の実施を予定している。保護者の感想としては、「自分の時間を持つことができ、リフレッシュできた」「子どもが1人で頑張っていると思うとほめてあげたり、離れる時間が有効的になっている」との声があり、子育て支援及び、子どもの集団生活の経験や慣れの観点で手ごたえを感じている。

〈子どもと考える食育〉

- 各学年が、「食育」を意識し、野菜栽培や日々の給食で子どもたちに話をした。

- 年長の子どもたちを中心に、管理栄養士の先生との直接のかかわり時間を意識し、給食室での調理の様子を動画や写真を見せながら説明したり、実際に出汁をとって飲む体験もすることができた。カレー作りでは、各クラス3つのグループに分かれて3種類のカレーを作って食べ比べるなど、管理栄養士の先生も一緒に調理に参加することで、調理や食材について専門家としての話を子どもたちが身近に聞くことができた。

（今後の検討事項）

- 「はなっこルーム」の取り組みで、企画をしても妊婦さんの参加申し込みがなかった。この点について、実際のニーズや、企画の周知方法について、検討したい。
- 外部講師の招聘と参加者数との見合いの把握・調整の難しさがある。
- 「ごろごろコース」の参加が少ないので、安全面から別にしていた「はいはい・よちよちコース」と合同開催にすることを検討している。

〈意見〉

- たなっこルーム(ごろごろコース)について、参加者は第1子とは限らない為、上の子も一緒に参加できると参加しやすいのではないかと

※アンケートフォームにて意見回収

◎重点事項の「子どもと考える食育」について、良かったと感じた点をお答えください。

- 作り手の管理栄養士さんとかかわりの元、食に関心をもつ場面があるのは良いことだと思った。
- 野菜をつくる、調理をする、調理をしているところを見るなど、出された料理を食べるだけでなく、過程を見せる点がとてもいい事だと思いました。
- 実際に自分たちで育てた作物を食べる体験は食べ物がどのようにして最終自分たちの身体へ入るのかなどへの興味関心を促す活動として、大変効果的で良いと感じました。
- 野菜栽培はすごく良いと思います。ウチの子も、茄子はそんなに得意じゃないですが、今日のご飯はゆかりご飯の上に育てた茄子がのってたよ！食べられたよ！と嬉しそうに話してくれました。自分たちでお世話した野菜は一段と美味しいと思います。
- なかなか自宅では野菜を育てる事が難しいので、幼稚園で野菜栽培ができるのはいい体験をさせて貰っているな、と感じました。またお友達みんなで育てることで、収穫できた時に一緒に喜びあえる事も嬉しいのではないかと感じました。
- 自分たちで育てた野菜などは愛着がわいて嫌いな野菜なども食べてくれそう。
- 栄養士さんや調理員さんと顔を合わせてかかわり、話を聞くという受動的なことだけでなく、一緒に作業する機会があること。
- 自分達で野菜などを育てて、育っていく過程も見ることによって食べ物に対する大切さの意識が育つと感じても良いことだと感じました。

また自分達で育てて、管理栄養士の方などどかかわることで同じ食材でも家とは違う形で食べることで苦手だったものも美味しく食べられるようになった子ども達も多いのではないかと感じました。

- 給食の時に先生がお野菜は栄養たっぷりだ身体にいいよと言ってたし栄養あるから食べるねと言って、いつも嫌がる野菜を食べてくれる時が増えました。食育してくれてるんだなと思ってたのですが、参加して年少・年中・年長、それぞれ合わせた食育をしてくれているのがわかり、いいなあと思いました。

- 子供たちが、実際野菜を育てる、手間暇かけて野菜が育つことを知り、食べるということは、実際体験しないと知れない事と思いました。

また、栄養士さんや、調理師さんの話も、ただ食べるのではなく、成長に必要な栄養を考えて作っている、美味しく食べられるように料理している、作ってくださる大変さ、感謝が生まれると思いました。

- 土から触れ、育ち、実になる過程を失敗も含めて経験出来ることはすごく良い体験だと思います。

- 野菜栽培をすることで苦手な野菜も自分たちが育てた野菜だからと食べることができたので良かったと思いました。
- 野菜栽培の体験は、土に触れたり、自分達の手で苗や種から作るという体験ができるので良いと思いました。野菜を作る中で、うまく作れない経験をする事も貴重だし、作った野菜への興味も持てるので良い取り組みだと感じました。また、出汁をとって飲む体験や、カレーの食べ比べも家庭では中々出来ないのので良い取り組みだと感じました。
- クラスで育てた野菜を毎朝気にかけて成長を見守っており、関心が伺えた。
- 調理をしてくださる方々が皆の健康を思って、素材や献立をいろいろ考えてくださっていることを知ってくれ、学んでくれ良かったです。
- 野菜栽培の体験
- 子どもが野菜に興味を持つようになった
- 子どもの食について、悩みはつきもので、関心が高い項目。食事の状況を知ることができて励みになると思う。
- 子どもと一緒に調理をすることは良いですよ!

◎「子どもと考える食育」について、気づいた点やアイデアなどをお聞かせください。

- 野菜作りを通して、成長は見れても実際に収穫ができない野菜があるのは少し残念に感じる。成長、観察、収穫、食べるの流れがあるといいなと思った。畑を借りいろんな食べ物の収穫体験や苗や種の植え付けを行う。年少、年中では年長の行ったカレー作りのような実習は難しいと考えますが、その様子を見学する機会などがあれば調理という分野にもさらに興味が持てるのでは？と思いました。年長のカレー作りがとても良いと思うので、年中さんでももう少し簡単なメニューで、とかできる工程だけ、とかでお料理の体験があると良い経験になるのかなと思いました。
- インスタグラムで拝見しましたが、野菜や食材などの掲示コーナーはとても分かりやすかったです。SNSで発信して頂けると自宅で子供とも一緒に見れたのでそれも良かったです。(まだ字が読めないのので) 以前給食調理員をしていましたが、給食配膳など教室で子どもたちと話したり関わったりすることがなかったので、子ども達の反応や感想などが直接聞けることは作る側にも食べる側にもメリットが多いのではないかと感じました。
- 今回 息子のアレルギーのものを植えて 食べられると思って楽しみにしていた息子は食べられなかったので、アレルギーに配慮があればなと思いました。
- カレー作りにおいて、食材のお買い物にも行き、食にまつわる体験の幅を広げる。・野菜栽培において、種から育てる。(すでに取り組んでおられたら申し訳ございません) 苗から育てる場合でも、苗を買いに行き、様々な野菜から選んだり、同じ野菜でも苗を自分で選べるようにする。近隣の貸農園などを活用し、農地で野菜を育てる体験を通して、鉢植えとの違いや農作業をされている方や自然の中で育つ野菜の様子を知る。園内だけでなく、園外へ出て地域や社会の普段の暮らしとつながる体験ができればいいかなと思いました。
- 幼稚園で育てた野菜が苦手な野菜だったことがあるのですが、給食に出てきて美味しかったし食べれたので家でも同じように作ってと言われたことがあるので、もし可能であればどのように調理したのか調理方法なども教えていただけると有り難いです。幼稚園でも食べれて家でも食べてくれると今後色々な場所で食べられるようになるのではないかなと感じました。
- いつ収穫できるか詳しい日がわからないとは思いますが、給食の献立表に収穫したお野菜が出る日が分かればその日を楽しみに、また行き渋りがある時など、育てたお野菜が今日出る日だから行こうねとか言えるので記載されたら嬉しいなと思いました。
- なかなか難しいですが、野菜栽培をもう少しひろげられたらなーと思います。
- 幼稚園ではみんなと一緒に食べられるものが家ではなかなか食べなかつたりします。たまに子供から、野菜はね、体が強くなるよと言って来る事があります。園と家庭が栄養のこんな話をしています！と言うのがもっと共有出来たら家庭でもそんな話をしながら食べてくれたらいいなと思います。
- 丁寧に汁をとって美味しいはずのお味噌汁なのですが、子どもが苦手です。お味噌汁以外の汁物レパートリーを増やしていただければありがたいです。
- 特になし

- 子ども達が食べたい、知っている野菜料理を調理、または給食で紹介する。「出汁をとって飲む」なかなか難しいことですが、「味覚」を大事に思う事はステキな事ですね。
- 子どもが野菜に興味を持つようになった

◎重点事項の「家庭と園をつなぐ子育て支援メニュー」について良かったと感じた点をお答えください。

- 実際の稼働状況は今後の課題であるが、様々な発案がなされているのは良いと思う。妊婦の時から園とかかわっていける取り組みがある事はとても良いことだと思いました。園庭開放にピクニックを取り入れられたのは、園庭で遊ぶだけでは不足しがちな参加する親子同士のコミュニケーションの場として活用できて大変良いと感じました。またどろんこ遊び日を設けられていたことは面白い試みだと感じました。参加人数は少なかったですが、園庭の安全な場所で思い切りどろんこができることが周知浸透すれば参加者は増えそうだなと思いました。
- 次年度入園児さん参加の回はすごく良いと思いました。にこにこクラブは実際通っていましたが、入園前から幼稚園という場所や集団生活へ慣れてもらうため本当に行かせて良かったと思いました。また私自身も他のお母さんと情報交換やお話ができかなりリフレッシュ出来たので、そこもありがたかったです。
- 園庭開放などで地域の子育て家族と交流できたりする点 園庭ピクニックの実施 園庭開放での園庭ピクニックは、普段自分の子どもの食べる姿しか見ていないので子どもにとっても親にとっても新鮮な機会になると思いますとても良いと感じました。
- ひとりっ子の親なので参観の時にしか幼稚園に行く機会がないので、ふたぷうマーケットがとても楽しみになっております。アロマ教室は予定が合わず参加断念しましたが、是非また開催していただきたいです。
- 双葉幼稚園が、園児だけでなく、家庭支援や援助ニーズに応えようと取り組んでいる点が素晴らしいと思いました。園が地域の方と交流をもち、地域の輪をつなぐ取り組みはすごく良いと思います。次年度新入園児の園庭開放が良かったです。特に第一子や近くに双葉に通うお友だちが少ない方から喜ばれると思います。
- 次年度新入園児さん限定の園庭開放や、妊婦さんや未就園児の保護者を対象にした企画の実施はとても良いと感じました。特に、妊婦さんから対象の範囲にしたのは、子育て支援の観点でとても良いと感じました。
- アロマ教室
- 妊婦さんを対象にした「はなっこルーム」いいですね～ 一人で在宅していると「悪阻」などでしんどい方なども外に出られると気分も変わり良いのではないのでしょうか。未だ人数的には集まってはいないようですが、少しずつ増えて行くのでは。願っています。
- 幼稚園にはあまりない取り組みで良いと感じた

◎「家庭と園をつなぐ子育て支援メニュー」について、気づいた点やアイデアなどをお聞かせください。

- 在園児でもお手紙で園庭開放など分かりにくいと感じる部分がある。掲示の仕方を色々考慮されていると思うが、分かりやすい掲示方法を模索することと、兄弟で参加できるなど少しハードルが低くなると参加率が上がるのではと思った。
- 妊婦の時から園と関わっていくのは、1人目の子ならコミュニティなどもなくハードルが高いのかなと思いました。
- はなっこルームの参加者が無かった一因として、幼稚園へのアクセスの問題では？と考えました。園の近くにバス停が無いことや、車での来園ができないことなど、妊婦さんの移動方法を考えると来園のハードルが高いのかもしれない。また、市の子育て支援センターなどの開催するイベントとの差別化。私立幼稚園ならではのイベントがあればいいと思います。(具体例が無くすみません。)
- 妊婦さんのはなっこルームで、妊婦さんでもできるストレッチや体操などはどうでしょうか？ 妊婦さんを対象にしたアロマ教室の参加が少なかったとありましたが、悪阻などがあると香りを嗅ぐことが厳しいと感じる方もいるかもしれないので赤ちゃんの帽子や手袋など編み物教室などはどうかなと思いました。アロマの他に 自分が妊婦のときなら シリコンビーズで歯固めジュエリーを作ってみたかなと思いました。
- ふたぷうマーケット平日以外の開催。・子どもたちも出店する。・障がいのあるお子さま、就学児(ふたば幼稚園卒ではない子どもたちも含む)が利用できる場もあればいいなと思いました。発達障がい、不登校、ヤングケアラー、貧困などの社会的な課題がこの地域でも無縁ではないなと感じることがあります。
- 様々な家庭の支援・援助ニーズを受け止められるのは範囲を広げすぎでしょうか…。構想を形にする、実行する、ためには大変なご苦労があることと思います。いつも素晴らしい取り組みをたくさんされていて本当に素敵な園だなと感じています。それは子

どもたちや保護者の方々と接する時に実感しています。いつもありがとうございます。好き勝手な意見を述べさせていただき、失礼いたしました。今後ともよろしく願いたします。

- はなっこルームで妊婦さんの申し込みがなかったとのことですが、周知方法ともし可能であれば子ども保健センターにチラシを置かせていただいたり、高槻の広報誌「TAKATSUKI Days」に掲載していただくのはどうかと思いました。妊娠中に保健センターを訪れることもありますし、高槻の広報誌には妊婦さんを対象にした色々な講座が載っているので多くの人に見ていただけるのかなと思いました。また妊婦さんだけでなく、夫婦で参加できたら妊婦さんも参加しやすいのではないかと感じました。
- 第一子妊娠中だと幼稚園で妊婦さんも対象の催しがされてると気付かないだろうなと思いました。産院にチラシを置かせてもらうことなどもされてると仰ってましたが、私はそれプラス高槻市の広報誌などを見て、そのような催しが無いかと探してたので高槻市の広報誌に載せるのは難しいでしょうか？
- 言われていた、妊婦さんの件ですが、なかなか妊婦さんを幼稚園に来てもらうのはなかなか大変と思います。(市のイベントだと行きやすいですが、、幼稚園に気軽には行けないと思います)自身の時の事を考えると、産休までギリギリ働いていたり、休みはゆっくり過ごしたりと。であれば、在園児の知り合いの妊婦さんを誘って頂く方法で来てもらう方が、まだ来てもらえるかなと思います。ごごろコースとはいはいコースは、同時開催の方が行きやすいと思います。保護者さんには、自分の子供の安全を守ってもらいながら、1、2歳の差を実際見れる事により、保護者も学びがあると思います。
- 妊婦さんを対象に何がいいかなと考えた時に、園にはホールがあるので、ヨガなどがいいなと思いました。産婦人科でもヨガ教室はありましたがすごく狭く、隣前後が密集しているのが、私は少し苦痛でしたので広いスペースでゆったりヨガをするのはいいなと思いました
- 妊婦さんの参加申し込みがほとんどなかったとのことですが、もしかすると妊娠中は幼稚園がまだ身近な存在ではないのかなと思いました。子どもが生まれて知り合いができれば一緒に参加することもできますが、私は妊娠中にマタニティ友達ができなかったので1人でイベントに申し込むのはハードルが高いのかもしれませんが。アロマ教室は今までにない企画で良かったと思いますが、日程が終業式とかぶっていて子どもたちがホール下で集まっていたのが日影とは言え暑さが心配でした。
- 妊婦さん向けの企画として・妊娠中でも出来るヨガ(外部の講師さんを招く事になるので、調整が難しい部分もあるかと思いますが)。
- キンダーカウンセラーの北口先生や園の先生と、妊婦さんとお茶会(気楽におしゃべりできるような場)
- 特になし

『中間評価を受けて』

今年度の当園の重点項目は「①家庭と園をつなぐ子育て支援メニューについて考える」「②子どもと考える食育」の2点 に絞り前半取り組んで参りました。

今回、これらの重点項目に対する取り組みの中間報告をさせていただき、学校関係者評価委員の皆様方より様々なご意見をいただきました。

①については、質の高い幼児教育・保育を提供することは勿論ですが、地域の子育て支援センター的な役割も果たしていく必要があると考え、従来より園庭開放やたねっこルーム、にこにこクラブ等を実施してきておりますが、今年度は新たに国のモデル事業として2歳児クラス「スマイル」と妊婦さん対象の「はなっこルーム」を初めて実施しております。「スマイル」は、国のモデル事業ということで「にこにこクラブ」と同じ2歳児クラスですが、保育時間が長いことや保護者の面談等、国の指針に基づいて7月より実施しており、今後、国に実績報告をあげて、これが今、話題になっている「誰でも通園制度」の制度設計に活用されるとのことで子育て支援の一環として取り組んでおります。

更に妊婦期からの子育て支援を目指して実施した「はなっこルーム」は、初回の取り組みは内容こそ評価いただいたものの妊婦さんの動員がうまく図れず苦戦をいたしました。

今回、中間評価でいただいたご意見を参考に後期の取り組みを進めて参りたいと考えております。

また、②については、園児たちが野菜栽培を自分たちで行うことにより、苦手な野菜が食べれるようになった等のご意見もいただきましたが、園内の菜園スペースが狭い点や野菜等の植付けから毎日世話をし成長を肌で感じながら収穫の喜びを体験し、収穫された野菜等を調理して食べるという流れの中で、更に園児たちの興味関心を広げていき、食に対する意識を高めていけるか、更に検討して参りたいと考えております。

評価委員の皆様方からいただいた貴重なご意見を参考にしながら、後期も取り組んで参りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

5. (年間報告 3月実施)

質疑応答

・評議員の成り立ちについて(どのように選定されているのか)

→学校法人に理事と評議員という役職があり、それぞれ「理事会」、「評議員会」(法人職員/有識者/地域の方など)という学校法人の運営に関する組織があります。外部理事・評議員の方に学校関係者評価委員会の評価委員として出席していただいています。

・次年度はにこにこクラブが廃止されるとのことだが、「誰でも通園制度」のスマイルとは、趣旨が異なると思うが、廃止になる理由などはあるのか

→もともと、未就園教室は、1つの形態で行う予定をしていましたが、国のモデル事業の通知/連絡が予定より遅くなってしまったため、募集時期などの観点で、令和5年度事業については、2つの形態(にこにこ/スマイル)で進めることとなりました。ニーズの違いなどは、考慮しながら令和6年度の子育て支援事業に活かしたいと思っています。

〈 意見 〉 ※後日、オンラインにて意見を回収したもの

・重点事項の取り組みについて、「ここはいいですね」と感じられる部分をお答えください。

(5件の回答)

・食育の点で、子供達がお野菜を育てて収穫してそれを食べるという流れを体験出来ているのがとてもいいなと思いました。お野菜1つにしても育てるのがどれほど大変か、そして育ったらどれだけ嬉しいかというのが実体験で感じられるのは素晴らしいなと思います。

・今まで食べられなかった野菜も自分達で栽培したり給食に出ることで食べてみたいという気持ちになり成長を感じられてとても良い取り組みだと感じました。

・どれも良いと感じましたが、その中でも特に・たねっこルームでの、0歳・1歳児対象のクラスの開催・2歳児クラス「にこにこクラブ」「スマイル」の実施・野菜栽培の体験・管理栄養士や調理員と、子供達と直接関わったり話す機会をもつこと

・子どもと考える食育

・2歳児クラスがにこにこスマイルの2種類あり、両方に登録されている方は入園前にかなり幼稚園に慣れることができ、入園後のつまずきも少ないのかなと思いました。

・重点事項の取り組みについて、「ここをこうすればもっとよくなるかもしれない」、

「こういう方法はどうですか」など、御意見やアイデアなどをお答えください。

(5件の回答)

・なかなか難しいのかもしれませんが、(もしくはしているかもしれませんが)田植え稲刈り体験や、秋にお芋掘り体験などがあればいいなと思っていました。

・時間と場所の確保上難しいかもしれませんが、たねっこルームは赤ちゃん次第で予約していても予約の時間に家を出ることが難しい場合もあると思うので開放時間を長く取ってみてはどうかと思いました。

開放時間が長いことで参加人数も増えるかもしれないと思いました。

・たねっこルームの「ごろごろコース」「はいはい・よちよちコース」は、前期よりも参加者が増え、認知度は徐々に高くなっていると思いますが、チラシなどを産婦人科だけでなく、校区内外の小児科や耳鼻科などにも掲示したら良いかと思いました。

・支援メニューは、前半にふたふうマーケット土日開催するなど、少し入りやすくすると、ごろごろの赤ちゃんも来やすくなるかなーと思います。マーケットの時にピラを渡すなどして。

・たねっこルームについて以前にも同じ意見がありましたがいろんな方に知ってもらうには市の広報誌に掲載してもらうのがいいかと思います。いつでも都合のいい時に行ける支援センターがいくつもある中で予約をしてその日時に向けて予定を合わせるというのが未就園児を育てる中で少しハードルが高くなってると思います。

・上記以外、その他取り組みで「いいですね」や「こうすればよくなりますよ」というアイデアなどがあればご記入ください。(4件の回答)

・次年度新入園児参加の園庭開放は今年度は昨年度に比べて参加人数が減っていたようですが、私も入園前に参加してとても良かったと感じていますので今後も続けてほしいと思います。

・食育の中で、園庭で実がなっただかりんを使って年長さんがシロップを作るという体験はとても良いと感じました。年長さんの子供達の興味や関心から始まったシロップ作りだと思いますが、先生方が子供達の好奇心を大切に下さっているのだなと感じました。

・学校関係者評価委員会に出席するという貴重な機会の中で、できれば評議員の方がどのように感じられたかを聞きたかったと思います。後日いただく議事録には寄せられた意見が載っていると思いますが、保護者の意見なのか評議員の方の意見かわからないので。

・インスタはほぼ毎日拝見しています。ちょっとした子どもたちの様子もよくわかるように伝えていただいていると思います。園が見せたい泥んこ遊びなどの投稿が多いように感じますが、泥んこや水遊びが好きじゃない子どもたちの様子が気になります。

今日の園庭のように園舎と反対側のお砂場やふたパークの方も広範囲に撮影していただけると嬉しいです。

【評価を受けて】

令和5年度も学校関係者評価委員の皆様方には、多くの貴重なご意見を頂戴し、心より感謝申し上げます。令和5年度の重点事項は、「①家庭と園をつなぐ子育て支援メニューについて考える」「②子どもと考える食育」の2点でした。

①については、当園は幼児教育施設として57年の長い歴史を持ち、保育(福祉)についても平成29年度より7年間携わって参りました。昨今の少子化や育児の孤立化等、子育てに多くの不安を募らせているご家庭が増えてきているように感じております。そのような中、当園は良質な幼児教育・保育を提供することは勿論、認定こども園として出産前から乳児期、幼児期を通じてご家庭の子育てを支援できる施設になれるよう近年は子育て支援事業にも力を入れて参りました。

子育て中の皆様が、どのような支援を求めているのか?(リサーチ)、どうすれば当園の子育て支援メニューを一人でも多くの人に知ってもらうことができるのか?(広報・発信)、そして、どのようにすれば園に足を運んでもらうことができるのか?(動機付け)、評価委員の皆様方からいただいたご意見も参考にして次年度へと繋げて参りたいと考えております。

次に②については、人間が生きる上で最も重要な「食」について、子どもたちにその意味や食べたくなるような動機付けを色々な方法で伝えて、無理なく少しずつ食べれるよう集団という力も借りながら取り組みを行って参ります。今回いただいた評価並びにご意見を次年度に活かして参りますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

6, 令和6年度 重点評価項目 「家庭と園で子どもの園生活を共有する」

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み 目 標
・食育活動の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが野菜など食材に興味関心を持ち、自身の健康保持・増進を意識した行動ができるようになる。 ・苦手な食材に対して、知識を得ることで、食べてみようという前向きに挑戦する姿が増えること。 ・食を作る仕事をしている方の存在に気づき、食に関する仕事や役割に関心が高まっていくこと。 ・上記に関する発信を受け、園がどのような食育活動をしているかということをおおよその保護者が知っている状態になる。(90%以上の理解度を指す)
・危機管理、安全意識向上に関する取り組みの共有	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の身体を動かす空間での経験を通して、身の回りにある危険や危険につながる環境を知り、対処しようとする事ができる。(怪我への対処なども含む) ・避難訓練などを通して、緊急時の行動を経験し、慌てず行動をすることができる。 ・上記に関する発信を受け、園がどのような危機管理、安全意識向上に関する取り組みをしているかということをおおよその保護者の方が知っている状態になること。(90%以上の理解度を指す)
・保護者参加型の機会を通しての共有	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者参加型の取り組み、機会について、令和6年度新たな試みができる。 ・保護者と園、保護者どうしなど、つながりができる機会が設定できる。 ・園の理念、考え方などに関する保護者の理解度が向上している。(90%の理解度を指す)

7, 財務状況 公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

幼稚園型認定こども園 園長 岡部圭二